

## 新火葬場建設地（案）市民説明会 開催記録

○日時 令和3年3月12日 午後7時～午後8時30分

○場所 高山市民文化会館 4-7 大会議室

○参加人数 21名

○高山市

副市長 西倉 良介

市民保健部

市民保健部長 橋本 宏 火葬場建設推進室長 尾前 隆治

火葬場建設推進室担当監 大川 誠 火葬場建設推進室職員 義基 現徳

### ○質疑応答の概要

参加者： 建設地（案）を宗教団体が所有していることについて、宗教をはさむのはまずいと言う人や、初めからそういう話があるならば反対したという人がいる。なぜ、宗教団体が所有する土地を選んだかが不思議であるという意見が多々ある。

葬儀事業所からの移動時間として、建設地（案）が18分とあった。丹生川地域の人に、どこから測ったのか、18分ではこれられないと言われた。

丹生川地域の人が、丹生川地域から宗教団体の名前を消してほしいと言った。

丹生川地域の人が、建設地（案）は土地が軟らかいから、しっかりしないと火葬炉が潰れると言った。

いろいろ話を聞くと、新宮町が原山に建設してほしいと、スキー場ではなくなったので、市で管理してほしいということだった。

清見町候補地でソーラー発電をしているため、電磁波が出ている。そういう場所に工場がくるだろうかと思う。

なぜ、初めに宗教団体に寄附していただいたと発表しなかったか。説明して意見を聞き、委員会を作って審議しなくては、簡単にやり直せる問題ではないと言う人もいた。

市民で選挙をして決めてはどうかという人もいた。

荘川町の人が、荘川火葬場が老朽化しているが、建設し直すのは無理だろうから、現在の高山火葬場や新火葬場を使わなくてはならず、近いほうがよいと言った。

白川村で高山市内の葬祭業者の会員になっている人は、その業者の会場で葬儀を行うことになる。葬儀場から20分、30分かかり、白川村に帰るまでに暗くなってしまふ。協力してもらえれば、近いところがよいと言っている。

建設地（案）はもう決まったことで、あなたが言っても憎まれてしまうと言った人

もいる。こうした意見があることは、市民が理解していないということで、憎まれ役を買った。

民家のない場所でと言うが、飛騨市古川町にある火葬場は周りに家がある。なぜ、昔は山に入って火葬を行ったかという、あるおじいさんが、立派な火葬炉がなく、腕や足が落ちるのを見てもらいたくないからと言った。今は立派な建物の中だから、旧警察署や解体工事中の検察庁の土地でもよいというのは冗談だろうが、近くにしてほしいと言う人がいた。町の中のほうがよく、新宮町候補地か清見町候補地がよいという意見が多いと感じた。

建設地（案）を決めるならば、市民に選挙をして問い直してはどうか。

現在の高山火葬場の跡地をどうするのか、計画を発表していない。全部が決まってから発表してはとも言われた。

市長が宗教団体の会員であると言う人がいる。本当ならば致し方がないが、うわさを話した人に、デマなので言わないようにと伝えたい。

昔、宗教団体の人から、団体の名称の町を作りたい、高山市の名称を団体の名称に変更したいと聞いたことがある。将来、その話のほうに進んでいくのではないかと心配している。

副市長： 市長に聞いたところ、その宗教団体の会員でも信者でもないということだった。

参加者： わかった。

副市長： 現在の高山火葬場の土地をどのように活用するか、まだ何も決まっていない。その土地も選考過程で候補地としてきた。今後、建設地が決まり、使われない見通しになったとき、考えていきたい。

市民が遠いと感じていると認識し、実際に測った結果が先ほどお話しした移動時間だった。時間、距離の状況を認識のうえ、ご判断いただけるとありがたい。

宗教団体が所有する土地であることについて、選考過程で、誰が持っている土地かは明らかにしていない。伏せた状態で選考したほうがよいという、検討委員会の考えもあったと思う。建設地（案）に建設する場合、そういったものを引きずることがないようにしなくてはと思っている。対応を検討していきたい。

参加者： 今、宗教団体の本殿をリフォームしている。隣の建物に関し、市は防災の協定をしているが、完成したら市に寄附するという話はあるか。

副市長： 本殿の横に新しく造った建物を防災の避難所として協定を結ばせてもらっているが、本殿が改修された後、新しく造った建物を市に寄附するという話は聞いていない。

参加者： わかった。

参加者： 第一印象としてコストが安すぎる。市の財政はそんなにひっ迫しているのか。

その辺りの山を一つ買い、てっぺんを切り、道路を付けるぐらいのお金をかけてもよい。

資料の地図はどこから持ってきたか。

市職員： 岐阜県域統合型GISからである。

参加者： 高山市は観光都市で、インターネットの地図を全国から見られる。建設地(案)に新火葬場を建設した場合、インターネットの地図で拡大すると、火葬場と文字が表示され、周りはビニールハウスの団地であることがわかる。ハウレンソウやトマトは大阪や名古屋で売っており、そっちの人も簡単に見られる。ぱっと見た感じで、やばいと思った。風評被害の事例がないと言うが、直感でわかる。消費者が見たらどう思うかという視点が一番重要である。これは商売の勘。損害額は2億円、3億円では済まない。

資料イ・5ページに概算経費の算出結果として4億円とあるが、ハウレンソウ農家の1年間の売上にすると、10件分程度の費用しかかけていない。

市職員： 造成やインフラ整備の経費として概算をしており、4億円には建物の分は入っていない。

風評被害について、農業生産額の上位100の都市に、火葬場が原因となって農業の経営に影響があったか、聞き取りを行ったが、そうしたことはないという回答だった。愛知県田原市では農地の近くに、北海道帯広市では畜産農家や広大な畑が広がる中に火葬場があるが、火葬場を要因とする影響はないと聞いている。風評被害の事例はないが、心配されることがあると思うので、危惧を払しょくできるよう、環境や景観に配慮したい。

参加者： 価格の補償をしてもらえるか。損害があった場合はどうするか。直感でやばいという感じもした。

市職員： 損害が出ないような整備をしたい。最新の設備で地域に影響が出ないようにしたい。

参加者： 丹生川町北方の住民である。私どもの町内では、答申され、説明会があった後、町内の総会を開き、全員一致で候補地から取り下げをほしいと市に陳情書を出した。私は近隣に農地を持っており、地主5名で市議会に陳情した。パブリックコメント等で意見をたくさん出して取り下げを願っていた。

圧倒的に利用者が多い高山地域の意見について、先ほど意見があったが、私も意見書に書いた、賛否を採れと。それに市は少しも動かなかつたが、取り下げをしてほしいと願っている。

市職員： 地元の丹生川町北方、大萱の皆さんからの意見を受け止めて進めていきたい。

参加者： 今、建設地(案)の近くの住民が反対していると初めて聞いたが、資料やホ

ームページに載っているか。

市職員： 資料イの 17 ページに、丹生川町候補地を除外してほしいという意見を掲載している。こうした形で意見を公表している。

参加者： 建設地（案）の近くの住民と書いてないのでわからない。賛成していると思っていたので、ホームページに書いてもらいたい、トップの場所に、できるか。

副市長： 昨日も説明会を開催したが、いろいろな意見がある。お話は、どういった趣旨か。

参加者： 近くの住民が反対していることを明記してもらいたい。新宮町候補地は住宅密集地だから駄目で、建設地（案）の近くの住民が反対しているのにオーケーというのは、つじつまが合わないと思う。

副市長： それぞれの説明会で出た意見を載せさせてもらう。

参加者： パブリックコメントは、先ほど発言した方が出した訳ではないのか。

副市長： あの方が出したかどうかはわからない。

参加者： そうだろう。違うのだろう。数の多さで、そういうふうにするのもよくない。

副市長： 市として出す場合、反対意見も賛成意見も載せることが公正なスタンスと思う。説明会で、この地域ではこういう声が出たということは、市民に伝える必要があり、対応させてもらう。

参加者： 平等に載せないと、数の多さでこっちは駄目で、住んでいる人がちょっとなので載せないとか、駄目である。

副市長： 反対という声を無視する考えはない。そういった声をしっかり聞き、最終的に方針を出すべきと思っているので、反対の声があることは、説明会の報告で述べさせてもらう。

参加者： 近隣住民が反対していることは重要なことである。初めて聞いたのか、近隣住民が反対していることは。

副市長： 初めてではない。

参加者： そうだろう。だいぶん前から聞いているのだろう。しっかりと載せないとまずい。

副市長： 陳情、要望があったものはすべて公表している。そうした取り扱いでいきたいと思っている。

参加者： 丹生川地域の人がオーケーであると思っていた。新宮町候補地ばかり、住宅地が見えるので駄目と書いてある。

副市長： いずれにしても掲載させてもらう。

参加者： 建設地（案）の近くに住宅があるのに、オーケーを出していると思っていた。亡くなった人にとって、近くの住民を悩ませる場所に作ることは、どうなのか。市民の全員にわかるように書いてもらいたい。

参加者： 多かった意見として、どの宗教にも関わりのない場所にしてほしいということも付け加えておきたい。

参加者： 建設地（案）の近くの住民が反対していることを、載せるという約束で問題ないか。

市職員： 今までの説明会についても、どこの会場で、どういう意見があったかを公開している。今後も、同じように対応する。

参加者： 必ず載せてほしい、建設地（案）の近くの住民が、大賛成と思い違いしていた。市民も、建設地（案）の近くの住民が大賛成しているので、そこにしたと思っているのではないか。百年後、2百年後、子孫がいざこざになってしまう。

市職員： 現在も載せており、同様に今後もやっていく。

以上